

文芸欄



俳句

紅梅会（東灘区）

立秋のまだ瑞々し青野菜  
垣根越え花の芙蓉の日の高さ  
頬に風庭立つ母の今朝の秋  
街路樹に鮮明に咲く芙蓉なり  
稲の花熱気強さ迷ひ風  
黄金の稲穂の中へ青列車  
立秋や富士山竝然天尊ぐ  
白玉のピンク酔芙蓉伊豆の旅  
原爆忌八十年の空の色

宝愛句らぶ（中央区）

一気には飲めないラムネ風呂上り  
買物に片陰選んで歩きおり  
夏草にしのび入る虫笑みこぼれ  
百合園の香り懐かし友は逝き  
ソーダ水泡数えんと幼の眼  
ソーダ水泡消えぬ間に去りし君

梅の美会（兵庫区）

難聴も程よく聞こゆ蟬の声  
悠然と進むかまきり首を曲げ  
銀翼や入道雲を切り裂きて  
湯上がりや素足に下駄の心地よさ

高原ささゆり会（北区）

あつ痛い素手にトゲ刺す初胡瓜  
朝顔の実のとりあえず三粒かな  
召されし子駆け回りおり花野原  
片方のサンダル啞え狐跳ぶ  
蜘蛛ごめん豪邸壊し我通る  
青空に夢を叶える虹の雲  
朝顔や色水つくる幼き手

◆個人

返らざる海辺の宿の夕月夜現、在尚鮮やか血潮寂しき  
公園の秋の七草花や咲きアサギマダラがみごとに乱舞  
地藏盆子守した子が親となり腰を伸ばして赤提灯見る  
若き日に捨てるように出た街のことは懐かし姉からのTEL

街並みのかがやき勝る月今宵  
あさぼらはしゃぐ鳥たち目覚ましに

松村二三枝  
南 久美子

ひまわり句会（北区）

着替えてもきかえても出る玉の汗  
根性と汗と涙の甲子園

石井 敏子  
辻 寿賀子

ひよどり台句会（北区）

老姉妹思わぬ別れ夏本番  
あじさいの紫映す雨滴かな  
挨拶は暑しあつしと門々で  
肺に入る重き空気は大暑かな  
サングラス取れば優しき瞳なり

塩見 光子  
田中 弘子  
筒井 豊子  
中井 光子  
矢谷登美子

北斗句会（北区）

噛み合わせ夫婦の会話秋暑し  
産着干す庭に高々黄のカンナ  
戦雲の漂ふ気配や敗戦忌  
危うさを纏いて昼の鳳仙花  
カンナ燃ゆ木造駅舎無人駅  
終戦日国一考の一日とす  
三年坂斜めに閉じる京日傘  
振り向けばカンナとコラボ西の空

岸下 正二  
久松 礼子  
増田 嗣夫  
秋山 弘之  
松本 洋子  
坂本 宏信  
金行 隆  
山崎 美雪

見山台新樹会（北区）

水無月や厨に流る酢の香り  
初夏や足裏にギャロップの響き  
風そよぐ青田の稲ののびのびと  
バケットの伸びゆく先は夏の雲  
「暑いわ」が挨拶代り昨日今日  
廃校にオルガン残り夏終る

松隈 弘子  
貞永 弘子  
佐溝満喜子  
高石 勝行  
丸尾 嘉子  
石本 宏一

五色山健寿会（垂水区）

天の川果てなくつづく地球戦  
夏雲の大いなる盾天主堂  
水撒きてかすかな風を待ちにけり  
原子力必要か子等の未来に  
トンネルの出口入口立葵  
船影の天外に消ゆ秋夕焼

智子  
眞みこ  
波 音  
くに子  
多美子  
淡 峽

桃山台クラブ文芸部（垂水区）

揚げ花火夜空いっぱい描きけり  
耐え切れぬ残暑を生きて秋に酔う

田畑美恵子  
大上 昭敏

きらく句会（西区）

仏壇へどうぞの声とさくらんぼ  
今は百合隣家の庭の花畑  
餌やりの目高にあだ名付けている  
背に肩に風鈴下げて路地を行く  
猛暑では何も手付かずひと日過ぎ

森本 珠実  
阪本 道子  
喜田 弘征  
尾上 正紀  
伊藤貴美子

◆個人

そよ風になびいておりし尾花かな  
蒼天にほこらしげなる百日紅  
みそ汁の具の逸品や今朝の秋  
高校野球心ひとつに育つ友情

(灘) 安田奈美江  
(北) 山田キミ子  
(須) 福本 和恵  
(須) 山本 高江

川柳

深江親交クラブ（東灘区）

改札を通れずよく見りや診察券  
万博に娘・孫・ひまごと三世代  
接骨院老人ばかりが大集合  
悲しいね一緒に食べたい一人飯  
缶ビール一缶別けて夫婦飲む  
断捨離は過去の整理か忘却か  
一度だけでも一度だけ咲かそうよ  
久しぶり話した友は誰だった  
町を行くサンダル履いて夏を踏む  
暑い日々今の恋人クーラーだ  
好きでしたと言える貴男は空の上

清水 育子  
津田 正江  
辻本美佳子  
長友八重子  
林 芳一  
東方 輝子  
増田 芳之  
三島 茂子  
村瀬 武子  
森 和子  
柳田多恵子

桂木ひふみ会（北区）

情報化ウソが大手を振ってゆく  
咲きほこる桜の花にうそはない  
あれこれと同時に始め片付かず  
専業主婦勤続手当はありますか  
新入生制服も映えすがすがし

荒木 宗Q  
京念久美子  
笹岡 淑子  
杉尾 悦子  
大和ケント

筑栄会（北区）

サンマ好き骨までしゃぶる次男坊  
持たせたい美女にも秋刀魚夢二の絵  
旨そうに焼かれる秋刀魚次は人  
今焼いた秋刀魚が猫と消えちゃった  
秋野菜蒔き時思案のアラートの夏  
真ん中に喋り上手がいて弾む  
この暑さ夏の残り火消しわすれ  
物価高すこしは自重したらどう  
菜園を誉めた帰りは大かぼちゃ

つくしん坊  
かほう  
菜々  
かをる  
三茶  
まさこ  
ボン  
せい  
あきら

◆個人

頭たれそっくり返る当選後  
もの忘れこまでくれればギネス級  
夕焼けや見とれためいきさんまこげ  
内意老けないばけけないお金もない  
鳴門関門峡イケス架けクジラ養殖  
里帰り母の教えは荷にならず  
赤トンボ季節知らせる天の舞  
予報雨カエルゲロゲロ肩痛む

(東) 西山美由紀  
(東) 早川キミエ  
(灘) 都倉 知子  
(北) 北野 利一  
(北) 宮内 政博  
(須) 久山 節子  
(垂) 小高 肇  
(西) 藤原 健二

とっておきの作品



「ムクゲ」



「マーガレット」

【灘区】灘中央第一句行クラブ 菅原 知香